

式 辞

本日ここに、戦没者ご遺族をはじめご来賓各位のご参列のもと、安芸太田町戦没者追悼・平和祈念式典を執り行うにあたり、戦争により犠牲になられたすべての御霊に対し、安芸太田町を代表して、謹んで哀悼の誠を捧げます。

戦後七十七年の歳月が流れた今日、戦争を知らない世代の増加とともに戦争の風化が危惧されていたなか、本年2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻が行われ、世界は再び戦争という悲劇を繰り替えしてしまいました。世界では未だ紛争やテロは存在していたとはいえ、少なくとも名の通った大国が戦争などという手段に手を染めることはない、世界はそれでも少しずつ進歩しているのだと思っていた私としては信じられない思いです。

こうした行為は、再び過ちを繰り返さないために戦争がもたらすあらゆる苦しみ、悲惨さ、恐ろしさ、そして、平和の尊さを次の世代に語り継いでこられたご遺族をはじめ、世界の恒久平和を実現するために努力を積み重ねてこられた全ての方々への冒瀆以外の何物でもありません。

ましてや、ロシアにおいては、核兵器使用の可能性にまで言及したことは言語道断であります。

かけがえのない肉親を亡くされ、戦後の混沌とした世相の中で深い

悲しみを抱えながら苦難に耐え、家族を支えてこられたご遺族の皆様方には、このウクライナの惨劇は決して他人ごとではないことでしょう。

私たちも、唯一の戦争被爆国の国民として、第3の被爆地を絶対に生まないためにも、引き続き、政府によるロシアへの働きかけを強く求めるとともに、積極的な核兵器廃絶の取組みを改めて求めてまいります。

また、本町といたしましても、すべての町民が安心し、心豊かな生活を送ることのできる住みよい町を目指し、真の平和の実現に向けて、皆様とともにより一層の努力をしてまいります。

結びに、戦没者すべての御霊の安らかなご冥福と、世界の平和と繁栄を願い、併せて本日ここにご参列いただきました皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げまして、式辞といたします。

令和4年8月15日

安芸太田町長 橋本 博明